

工学部FD委員会

平成 21 年 10 月 29 日

平成 19-21 年度授業アンケートの結果とその活用について

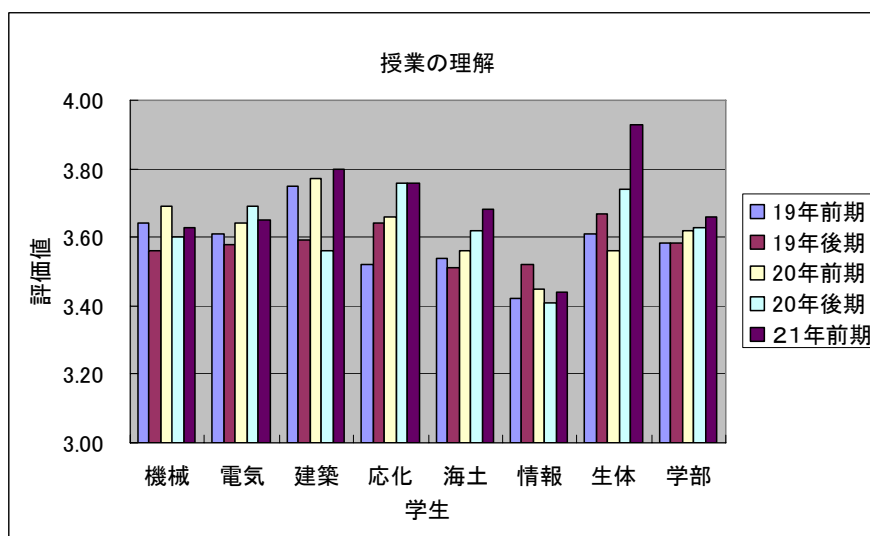
工学部FD委員会では学生による授業評価アンケートを実施しています。平成21年度前期までのアンケートデータの結果が出ていますので、その結果の一部を公表します。この授業評価アンケートは、学生が授業内容の理解を深め、教育の質の充実を図る活動の一つとして継続して行っています。平成19年度前期～平成21年度前期までの授業アンケート結果を年度(前期・後期)順に比較して示してあります。

授業アンケートでは15項目について質問しました。各質問の内容は5つの回答(評価)に分けて行いました。その質問項目の中で④, ⑦, ⑭は以下のようなものでした。

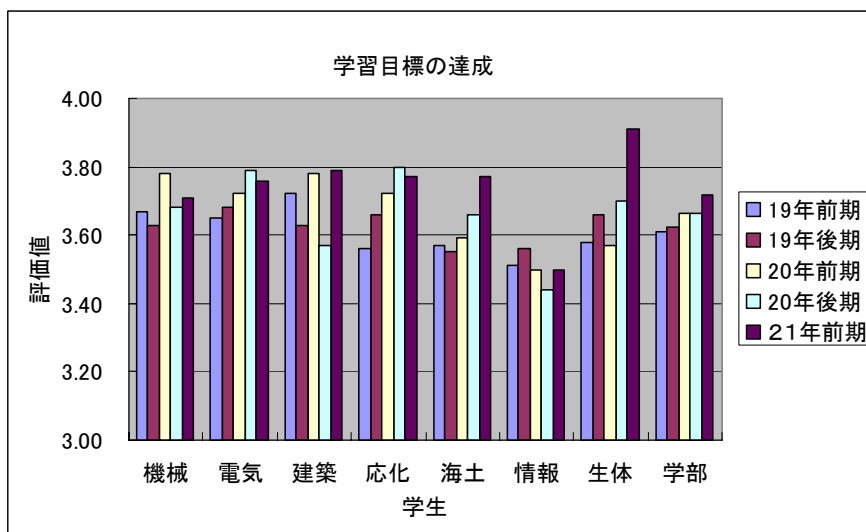
項目	質問の内容	評価				
		5	4	3	2	1
④	授業は理解できた	大いにそう思	そう思う	どちらとも言	そうは思わ	全くそうは思わない
⑦	シラバスに記載された授業目標を達成できそうか	大いにそう思	そう思う	どちらとも言	そうは思わ	全くそうは思わない
⑭	1コマ(90分)の授業に対して、予習と復習の時間を合わせてどれ位をかけたか	3時間より	2～3時間	1～2時間	30分～1	30分未満

これらの質問について各学科(または工学部全体)の回答結果をまとめてみると、以下のような結果になります。これは学科で開講された全講義科目の平均値で示してあります。21年度から学部の改組がありました。改組前の学科で示してあります。

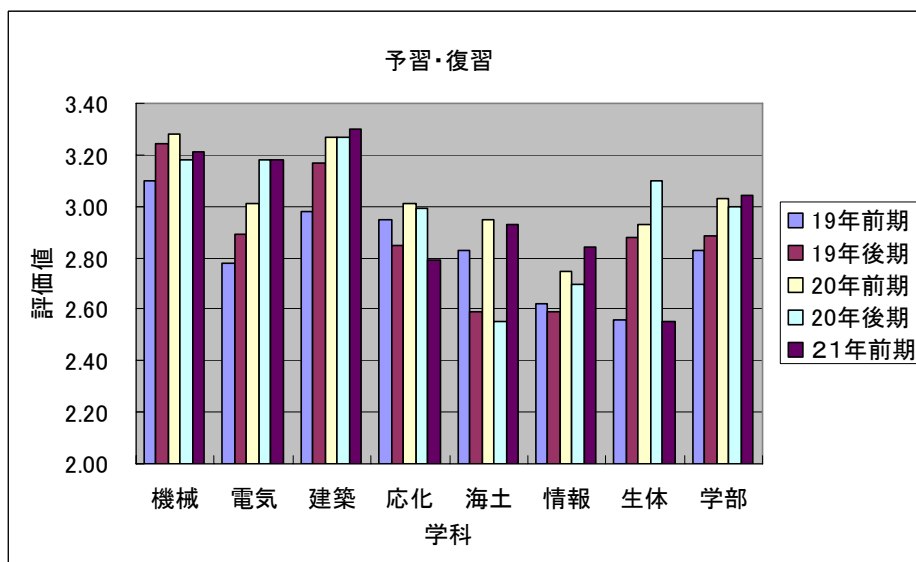
- (1) 図は、項目④の質問(授業は理解できたか)に対する結果を示します。学科によって若干の相違や多少の年度・学期による上下は見られますが、総じて授業の理解が深まったと答えた学科が増加していることがわかります。



(2) 図は、項目⑦の質問（シラバスに記載された授業目標を達成できそうか）に対する回答を示しています。総じて年々向上していますが、未だ十分で無いと思う学生が多いことを示しています。



(3) 図は、項目⑭の質問（1コマの授業に対して、予習・復習の時間を合わせてどれ位かけましたか）に対する結果を示しています。学科によって少し異なっていますが、2時間を超えていないことを示しています。予習・復習は授業の理解度を高めるために非常に重要であると、シラバスに示してありますが、④授業の理解に対する結果と対比しますと、時間が多い学科の学生ほど理解も増加していることがわかります。また、予習・復習の時間は年々増える傾向にあることを示しています。



以上のように授業アンケートはシラバスに示された学習目標を達成し、それに相応しい十分な学力を有した学生の教育を目指したものであることを理解して下さい。このため、今後実施する授業アンケートには正確に回答してもらうことで、一層の改善に繋がっていくことを理解して下さい。授業アンケートの結果を受けて、授業担当の教員は、科目ごと授業計画改善書を次年度に向けて作成し、「目標の達成度の向上」を図る試みを行っています。

より詳しい学各科の分析結果は、各年度ごとの工学部 FD 委員会報告書にも報告しています。